

③7 【医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院】

住 所	〒196-0003 東京都昭島市松原町3-1-1		病床数：536床
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、甲状腺内分泌科、皮膚科、リハビリテーション科、リウマチ科、神経内科、小児科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、消化器外科、泌尿器科、肛門外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、美容外科、婦人科、放射線科、麻酔科、疼痛緩和科、精神科、病理診断科、救急総合診療科、歯科口腔外科		
研修責任者名	佐藤 一彦（院長）	連絡先：042-500-4433	連絡先担当者名：内田 菜々美（人事課）
新臨床研修医指導実績	・新潟大学臨床研修病院群研修プログラム 2023年度0名 ・東京西徳洲会病院初期臨床研修プログラム 2018年度1名、2019年度4名、2020年度3名、2021年度2名、2022年度2名、2023年度2名（プラス1名たすぎがけ）		
	研修受け入れ可能診療科	学会認定専門医数	学会認定指導医数
必修：内科（総合内科、循環器内科、消化器内科）、外科、救急総合診療科	日本内科学会3名、日本放射線科学会（診断）1名、日本放射線科学会（治療）2名、日本核医学学会1名、日本救急医学会2名、日本集中治療医学会1名、日本形成外科学会1名、日本外科学会4名、日本循環器学会3名、日本消化器病学会2名、日本小児科学会2名、日本腎臓学会1名、日本麻酔学会4名、日本心臓血管外科麻酔学会1名、日本乳癌学会2名、日本病理学会2名、日本ペインクリニック学会1名、日本胆道学会1名、日本超音波医学会1名、日本泌尿器科学会2名、日本整形外科学会1名、日本脈管学会1名、日本放射線腫瘍学会2名、日本臨細胞学会2名、日本心血管インターベンション治療学会3名、日本消化器内視鏡学会2名、日本ロボット外科学会1名	日本内科学会1名、日本外科学会2名、日本麻酔学会2名、日本消化器内視鏡学会1名、日本プライマリ・ケア連合学会1名	
施設の概説・特徴			
徳洲会グループ58番目の病院として、「生命（いのち）だけは平等だ」の基本理念のもと、2005年9月に開院した536床の病院です。2020年2月にはJCIを取得しました。開院当時から、24時間365日断らない医療を実践すべく、救急搬送の受け入れを中心に継続した医療を行っています。ウォークインの軽症から救命が必要な重症患者まですべてを受け入れ、初期診断・初期治療を行ったのち、専門診療科に紹介するシステムを取っています。当院の救急搬送数は年間6000件を超え、研修医は「多数かつ幅広い」症例を経験することができます。			
研修受け入れ可能診療科の説明			
<ul style="list-style-type: none"> 総合内科 救急総合診療科と連携した内科全般を担当します。 循環器内科 医師5名体制で、年間心臓カテーテル件数約1000件、CAG1200件の実績があります。東京都CCUネットワークにも参入し、24時間体制で救急対応も行っていきます。 消化器内科 消化器内科・消化器外科・腫瘍科・光学診療部が、「ひとつの診療科」として融合した、民間病院では非常に珍しいスタイルの診療科です。内科と外科が単に協力するのではなく、治療の開始から治療完了まで、内科医師と外科医師が一人の患者様の治療に関わります。 外科 脳と心臓を除く全ての外科領域の患者様をチームで対応しています。様々な疾患が経験できます。 救急総合診療科 当院ERでは、年間救急搬送数6039件、ウォークイン3075人を受け入れています。「断らない医療」を実践しています。 			
研修の概説と特徴			
①本プログラムは救急科を要に、総合的な臨床能力を有する医師の育成を目指す。エマージェンシー・ケアとプライマリー・ケアを中心にした実践的な初期研修プログラムです。 ②1年次は、救急診療科（2ヶ月）、内科（6ヶ月）、外科（4ヶ月）の各科をローテートして外来・病棟診療の基本を身につける。救急科での研修は、2ヶ月間の固定ローテートに加えて、内科・外科研修中も年間を通じて週に1～2回の頻度で（当直を含む）2年次修了まで継続し、エマージェンシー・ケアとプライマリー・ケアの症例を数多く経験します。2年次は、小児科（2ヶ月）、産婦人科（1ヶ月）、救急科（2ヶ月・麻酔科含む）、精神科（1ヶ月）、地域医療研修（2ヶ月）を必修科とし、残りの4ヶ月を選択科として各科（内科、外科、放射線科、泌尿器科、救急診療科、ホスピス）のローテート研修を選択することができます。1年次と同様に全てのローテートと並行して救急診療科にて週に1～2回の頻度で（当直も含む）研修し、1年次研修医の指導を行います。 ③救急診療科での研修は、2ヶ月の研修の他に2年間を通じて他のローテート科と並行して行います。この研修は当プログラムにおいて中心となるエマージェンシー・ケアとプライマリー・ケアの修得の場であり、初期診断から適切なコンサルテーションまで一連の基本的診療技術を身につけます。この研修期間中に診察をした患者が入院する場合、原則としてその診療の研修医が所属するローテート科である場合、担当医として継続して一連の治療の経過を研修します。 ④希望者は3年次以降の後期研修プログラムにも継続して参加でき、希望診療科に所属して各学会の認定医・専門医の資格を取得するための研修を受けることができます。			
研修医の当直			
<ul style="list-style-type: none"> 救急総合診療科研修（当直） 月6回程度 当直手当：1年次 1回25,000円、2年次 1回30,000円 			
処 遇			
<ul style="list-style-type: none"> ●給与：1年次 基本給300,000円 残業手当あり 賞与年2回(420,000円)、2年次 基本給320,000円 残業手当あり 賞与年2回(720,000円) ※別途諸手当あり ●食事：職員食堂あり(1食300円、朝・昼・夜)、医局に用意あり(当直時はお弁当あり)、コンビニエンスストア ●宿舎：研修医寮あり(寮費 月19,500円)、賃貸の場合家賃の半額分補助(上限50,000円) ●居室：研修医用の居室あり ●図書：文獻、各種資料検索のための図書室が常備、各領域主要学会誌、医中誌、UpToDate ●インターネット環境：図書室、院内無料Wi-Fi 			

※「必修」で掲載されている診療科は、「選択研修」でも研修可能です。